



であなたの手元に届くwebマガジン

おばこ稲作情報



2023年10月 No.4 7

JA秋田おばこ



Youtube はじめました



チャンネル登録 お願いします

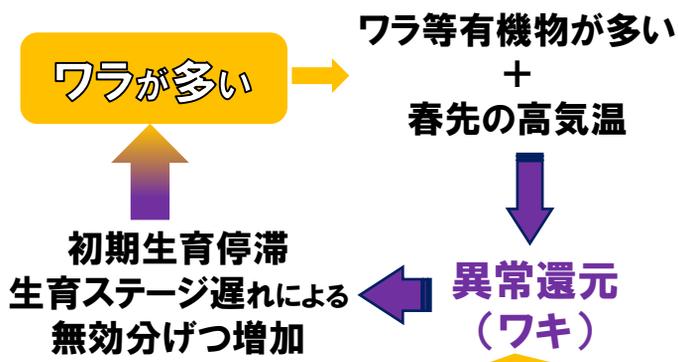


稲わら還し、

来年活かす

収穫後、稲わらは雪の下になり、自然に分解が進み、腐熟していきま
すが、寒冷地の管内では思ったより
も腐熟は進みづらいです。そこで、
稲わらの分解と腐熟を手助けしてく
れる資材を使うことで、翌春までに
稲わらを土に還し、来年の地力とし
て活用することが出来ます。

稲わら等有機物が多いと、浮きわ
らとなったり、田植え後に異常還元
(ワキ) 発生の原因となったりと生
産性向上の妨げとなります。
せっかくの有機物を「資源」とし
て活用し、来年こそ豊作となります
ように。



ワキを少なくする事がポイント

腐熟促進剤 透排水性改善
秋耕起 飽水管理

品名	規格	10a当 散布量	秋耕起
根友G	20kg	1~2袋	散布後、速やかにすき込むこと。耕深は7~10cmの浅め。
わらゴールド	15kg	2袋	
ワラ分解キング	10kg	1袋	
ケイカル	20kg	2袋以上	
石灰窒素	20kg	10~20kg	

LINE公式アカウント
「@ja-obako」で検索
稲作情報発信中!



ガラケーでも!
メルマガも始めました
稲作情報があなたの手元に!

